

山口県や九州北部地域を中心にしたこのたびの豪雨災害においては、多くの死傷者を出し、未だライフラインの復旧が完全でないなど、甚大な被害が報告されている。また、復旧作業が進む一方で、文化財の被災状況も報告され始めている。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

山口県教育委員会の発表では、「毛利氏庭園」「萩往還」などを含め、建造物、史跡・名勝など中心に7件8箇所被害が出ているとのことである（共同通信：2009年7月30日）。特に被害の大きかった防府市においては、市指定有形文化財の仏像を避難させる際に、一部が破損したという情報もある。この寺院では大量の土砂が建物を直撃し、連絡を受けた市教委の担当者と近隣住民が協力して避難活動を展開したが、担当者からは「避難で精いっぱい、丁寧に保護する余裕がなかった」とコメントが出ている（中国新聞：2009年7月28日）。

今後も復旧作業が進む中、未指定資料なども含めて被害の拡大が懸念される。また、同じく被害のあった九州北部地域の状況も懸念される。文化財保存修復学会としては、災害対策調査部会を中心に、情報の収集と復興支援要請に応じて協力活動を行う予定である。（文責：災害対策調査部会 中村）